

1 学校教育目標

- ・広い視野に立ち、深く考える人になろう。
- ・あたたかい思いやりを持ち、心にうるおいのある人になろう。
- ・進んでものごとを行い、力いっぱい努力する人になろう。
- ・健康なからだをつくり、明るい心を持った人になろう。

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○「通いたい・通わせたい・誇れる」学校 (1) 基礎的・基本的な学力の確実な定着と向上を目指す学校 (2) 豊かな心の育成と規範意識の確立を目指す学校 (3) 文武両道を実践し、生徒・保護者・地域から信頼され誇れる学校
○児童・生徒像	○「自らの生き方に自信をもち、社会に貢献できる、本気で取り組む」生徒 (1) 毎日の授業と家庭学習にしっかり取り組み、自ら向上しようとする生徒 (2) 礼節を重んじ、進んで挨拶することができる生徒 (3) 自他共に大切にでき、自己有用感や自己肯定感をもつことができる生徒
○教師像	○「信頼される」教師 (1) 理論と実践を重んじ、生徒一人一人の能力を伸ばしようとする教師 (2) 職務に真剣に取り組む、生徒からも保護者・地域からも信頼される教師 (3) 常に自己を高めるための研鑽に励む教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

○ 学校の現状

- (1) 落ち着いた学校生活環境の中で教育活動が行われ、生徒が学校行事や生徒会活動、委員会活動、部活動に熱心に取り組んでいる。
- (2) 教職員が、授業をはじめ学校行事、部活動、地域行事、生徒指導に労を惜しまず取り組んでいる。
- (3) 学習につまずきのある生徒や家庭学習の困難な生徒に対して、学習の場を提供して少人数指導・個別指導を含めた学習支援を行っている。
- (4) 開かれた学校づくり協議会、PTA、地域と連携した活動をとおして、地域とのふれあいや絆を深め、生徒が地域の一員としての自覚と郷土を愛する心情が養われている。

○ 前年度の成果

- (1) 学力向上アクションプランの確かな実践をとおして、基礎的・基本的な学力の定着および向上に向けた組織的な取組は継続することができた。4月に実施した区学力調査結果では、区平均より通過率が2.1ポイント、正答率は0.1ポイント上回った。
- (2) 生徒への学校生活アンケートにおける「信頼」に関する項目での肯定的回答平均は92.8%であり、「学校生活は楽しい」が95.3%、「入学して良かったと思う」が94.7%、「生徒の意欲や努力を正しく評価してくれる先生が多い」が90.3%であった。今後も生徒に寄り添い、大切にしている指導をとおして個々の生徒の意欲や満足感をもたらす学校をめざしたい。

(3) 前年度は中止となった連携小学校3校の6年生児童を対象にした中学校授業体験・部活動体験を実施することができた。連携各校における研究授業では、前年度以上にICT機器を活用した授業展開に取り組むことで、系統性や継続性を意識した実践を行うことができた。

○ 前年度の課題

- (1) 学力の定着と向上を図るため、学力向上アクションプランの効果的な計画と確かな実践を図り、教師全員が足立スタンダードを基にした、特に「めあて」「まとめ」「振り返り」を大切にする授業展開を実践するとともに、学習指導要領に即した指導と評価の一体化の充実と、ICT機器等を効果的に活用した授業力の向上と家庭学習の充実をめざす。
- (2) 生徒の主体的、積極的な活動をとおして自己肯定感、自己有用感を高めるとともに、将来の夢や目標をもち、実現に向けて努力する姿勢を育成するキャリア教育の充実を図る。
- (3) 次年度の研究主題を「小中連携による9年間を見通した教育の推進～見通しをもって、主体的に学ぶ児童・生徒の育成～」とし、学習指導要領に伴う指導と評価の一体化を念頭に置き、生徒たちが未来の創り手となるために必要な資質・能力を育んでいく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプランの効果的な計画と確かな実践	○	○	○	○	○
2	教師の人権感覚と意識の高揚による生徒指導力の向上	○	○	○	○	○
3	小中連携による義務教育9年間を見通した教育の推進	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプランの効果的な計画と確かな実践							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)		コメント・課題			達成度 ◎○△●	
学力向上を図るためのアクションプランの効果的な計画と確かな実践		<ul style="list-style-type: none"> ・年度末令和4年度区学力調査正答率 70% ・令和5年度区調査通過率 70% 							
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

継続・改善	家庭学習ノートによる家庭学習習慣の定着	全学年・全生徒 国語・数学・英語を中心	通年	<p>【指導体制】担任あるいは学年所属教員</p> <p>【取り組み内容、ねらい、目的】毎日の家庭学習習慣の定着を図るために3教科を中心とした課題を用意する。子どもたちはその課題に取り組むか、自ら設定した課題を家庭学習で取り組む。また、生徒用、保護者用の「家庭学習の手引き」(5教科)を作成・配布し、具体的な学習のヒントや関わり方のポイントを示し、家庭と連携した取り組みを行う。さらに、「A Iドリル」を活用した家庭学習の取り組みを進める。</p>	<p>担任を中心にした学年教員がノートや課題提出状況の点検を行い、進捗状況を確認する。</p> <p>保護者が家庭学習の様子を確認する機会を設ける。</p> <p>「A Iドリル」の学習履歴で学習状況を確認する。</p>	<p>通年で80%以上の家庭学習ノートの提出をめざす。</p> <p>年2回、保護者と家庭学習ノートの様子を確認し、学習の取り組み方について話し合う。</p> <p>年間で個に応じた活用が見られる。</p>	
継続・改善	金曜日朝テスト 放課後学習	全学年・全生徒 国語・数学・英語を中心	通年	<p>【指導体制】担任あるいは学年所属教員</p> <p>【取り組み内容、ねらい、目的】毎週始めに範囲や課題を配布し、その週の金曜日の朝読書時間にテストを実施する。内容は基礎・基本的な内容とし、基準点に達しなかった生徒は翌週の放課後学習対象生徒となる。</p> <p>放課後学習では金曜朝テストを合格するまで学習を続ける。また、1学年においては、中1夏季勉強合宿用問題集を活用し、生徒の学習定着状況把握など継続的な取り組みを行う。</p>	放課後学習で、前週の朝テストの内容や課題が解けるようにする。	漢字や計算、英単語コンテストの予習という側面もあるので、各種コンテストにおいて合格率90%以上をめざす。	

継続・改善	自習教室 質問教室	全学年・ 全生徒 国語・数 学・英語・ 社会・理科 を中心に 全教科	考查1 週間前 期間	【指導体制】学年所属教員 【取り組み内容、ねらい、目的】家庭での学習環境が整わない生徒、あるいは質問のある生徒を対象に自習教室、質問教室を開く。 【使用教材】生徒各自の学習課題	各学年、実施のお知らせと併せて参加希望を把握する。実施日に各学年教員が参加人数を確認する。	各学年、毎回の出席者を1割以上をめざす。
継続・改善	サタデー スクール	自由参加 生徒自ら が用意す る課題	通年	【指導体制】教員2名+地域の協力者 【取り組み内容、ねらい、目的】毎月1回土曜日の午後に実施する。参加は原則自由であるが、上記2項目の「放課後学習」や授業、家庭学習課題で十分な成果がみられない場合は指名することもある。	実施のお知らせと併せて参加希望書を回収する。また、当日、参加者名簿を作成し、参加人数を把握する。	毎回の出席者を10名以上にす る。
継続・改善	朝読書	全学年・ 全生徒 国語	通年 登校後 の10分 間	【指導体制】学年所属教員 【取り組み内容、ねらい、目的】読書の習慣を身につけさせることで、集中力や語彙力・読解力の向上をめざす。 【使用教材】生徒各自の持参する書籍	読破した書籍名を各自が記録し、年度末にその量に応じて表彰を行う。	各学級において、全校生徒が読書に親しむ時間を保障する。
継続・改善	AIドリルの 活用	全学年・ 全生徒 国語・数 学・英語・ 社会・理科	通年 各教科 登校後 の10分 間 放課後	【指導体制】教科担当教員、学年所属教員 【取り組み内容、ねらい、目的】各教科の取組に加え、金曜日朝テストや放課後学習、家庭学習にも取り入れ、学力の向上をめざす。 【使用教材】AIドリル	「AIドリル」の学習履歴で学習状況を確認する。 放課後学習で、前週の朝テスト内容の課題が解けるようにする。	各種コンテストにおいて合格率90%以上をめざす。 年度末区学力調査正答率70%をめざす。

継続・改善	各種コンテスト	全学年・ 全生徒 国語・ 数学・ 英語を 中心に 各教科	年間を 通じて 3回程度	【指導体制】学年所属教員 【取り組み内容、ねらい、目的】漢字・計算・英単語（構文含む）等のコンテストを各学年とも各1回以上実施する。教科担当にとらわれず、アクションプラン上記1及び2項目とも関連させて取り組む。内容の精選と、放課後学習を活用した個に応じた指導による全員合格をめざす。 【使用教材】教師自作問題	コンテストの結果集約から確認する。	各種コンテストの合格点への合格率が90%以上をめざす。
継続・改善	教員の 授業力向上	全教科・ 全教員	通年	【取り組み内容、ねらい、目的】学習指導要領に即した指導と評価の一体化の充実を図るための研修を前期・後期の2回実施する。足立スタンダードを基に、「めあて」「まとめ」「振り返り」をふまえた授業展開の実践や成果発表授業及び校内研修などを通じて教員の授業力向上を図る。	研究授業や授業観察 各種調査結果、 生徒の授業評価アンケートから確認する。	学校評価アンケートで『わかりやすい』という肯定的な意見が90%以上をめざす。 各種調査結果で前年度を上回る結果を出す。
新規	ICT 機器の 効果的活用	全教科・ 全教員	通年	【取り組み内容、ねらい、目的】ICT機器を教員全員が効果的に活用し、授業力の向上をめざす。効果的な活用方法について校内研修や教科部会等で共有する。	研究授業や授業観察 各種調査結果、 生徒の授業評価アンケートから確認する。	学校評価アンケートにおきICT機器活用に関する項目で肯定的回答85%以上にする。
継続・改善	少人数授業	数学の 授業	通年	【指導体制】教科担当教師 【取り組み内容、ねらい、目的】個に応じた指導で、基礎的な内容の習得をめざす。	各種調査結果、 生徒の授業評価アンケートから確認する。	生徒アンケートにおいて、「わかりやすい」という肯定的な意見を85%以上にする。

継続・改善	年間指導計画の中に「前年度復習期間」と「学力確認期間」を設ける。	全学年・全生徒 国語・数学・英語を中心に各教科	年度当初(全学年)、年度末(2月上旬から中旬)	【指導体制】教科担当教師【取り組み内容、ねらい、目的】各学年とも国語・数学・英語は年度当初の指導計画の中に「復習時間」をもうけ、当該学年指導が円滑に開始できるようにする。区調査の自校採点によって、早期に学習の定着状況を把握、分析、対策を立てる。また、年度末(2月上旬から中旬)に1, 2学年を対象に「学力確認期間」を設け、学力の到達度を確認する。	授業観察 模擬テストを実施し、結果集約から確認する。	区調査を中心に、各種調査結果で前年度の成績、年度当初の成績を上回る。	

重点的な取組事項－2		教師の人権感覚と意識の高揚による生徒指導力の向上				
A 今年度の成果目標		達成基準		実施結果	コメント・課題	達成度
確かな人権感覚に基づく生徒と教師との信頼関係を基盤にした指導とキャリア教育の充実		学校評価アンケートから「信頼度」を示す項目で肯定的回答平均が90%以上と「進学や就職などについて、自分の将来について考えている」の項目で肯定的回答平均が80%				
B 目標実現に向けた取組み						
項目	達成基準	具体的な方策		実施結果	コメント・課題	達成度
人権尊重の視点で生徒理解に基づく生徒指導と特別支援教育及び教育相談の充実を図る	学校評価アンケートにおいて「生徒の意欲や努力を正しく評価してくれる先生が多い」の肯定的回答が85%	・生徒の心に寄り添う指導を基盤として、Web-QU 調査結果を活用した個々の生徒の学校生活における意欲や満足感、学級集団の状態を把握し、各学級担任と特別支援教室巡回教員との連携した生徒指導や教育相談に活かす。				

チェンジ&チャレンジの姿勢で活動する生徒の育成とキャリア教育の充実	学校評価アンケートにおいて「積極的な活動」や「将来について考えている」に関連する項目の肯定的回答平均 80%以上	・生徒会、委員会活動や学校・学年行事、部活動の積極的な参加と活動の充実をとおして自己有用感、自己肯定感を高め、将来への夢や希望に向けて努力する姿勢を育成する。	
より良い学校生活を主体的に考え、礼儀と規律ある生活ができる生徒の育成	学校評価アンケートにおいて「礼儀や規律ある生活」に関連する項目の肯定的回答平均が 90%	・生徒会や委員会活動の主体的な活動をとおして、より良い学校生活に対する生徒の意識を高める。	

重点的な取組事項－3		小中連携による義務教育9年間を見通した教育の推進			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
学習指導要領に即した指導と評価の一体化を踏まえ、小中学校における学習内容の系統性や指導方法の継続性を考慮した足立スタンダードに基づく授業展開を図るとともにICT機器を効果的に活用した授業力向上を図る	学校評価アンケートにおいて授業に関する項目で「わかりやすい」という肯定的回答平均が 90%				
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学習指導要領に即した指導と評価の一体化を踏まえ、足立スタンダードを基にICT機器を効果的に活用した授業実践	学校評価アンケートにおける「めあて」「学び合い」「まとめ」「振り返り」とICT機器活用に関する項目で肯定的回答 85%	・指導と評価の一体化を踏まえ足立スタンダードに基づく授業展開を図るとともにICT機器を効果的に活用した授業を実施する。			

9年間の連続性を踏まえた指導内容の系統性と指導方法の継続性のある授業実践	小中連携における教科分科会・研究授業、授業体験において足立スタンダードに基づく授業の実施	教科分科会における指導案検討と研究授業、6年生児童を対象とした体験授業において足立スタンダードを基にした授業展開を実施する。	
中1ギャップの未然防止	6年生児童に中学校授業体験と部活動体験の実施	連携小学校3校の6年生児童を対象とした中学校授業体験と部活動体験を実施する。	